

図書室だより

平成28年5月
深谷市立川本南小学校

今年度は4月22日から貸出が始まり、5月からは1年生も図書室を使えるようになりました。今年度も、年間100冊以上読んだ人は、賞状がもらえます。ぜひ図書室に足を運んでくださいね。

4月にたくさん本を読んだ人

5冊	6の1	大澤 凛紗 さん
4冊	6の1	江原 菜々美 さん
	6の1	吉田 琴美 さん
3冊	3の1	新井 柊花 さん
	3の1	小川 裕斗 さん
	4の1	夏堀 太地 さん
	4の1	松本 有生 さん
	5の1	松本 春香 さん
	3の1	川原 涼雅 さん
	6の1	岩渕 希乃果 さん
	6の1	宇野 慶太 さん
	6の1	玉川 那由多 さん

4月に一番多く本を借りてくれたクラスは、
6年1組(48冊)です！

図書委員さんのおすすめの本を
窓際の「絵本コーナー」の上に展示しました。
展示してある本も借りられますので、みなさん
ぜひ、借りに来てくださいね。



人権問題に関する読書

「人権に関する本はありますか？」と
聞いてくれる児童が増えてきました。

図書室にも、人権に関する本はたくさん
あります。

まず、『学校へいけない子どもたち』

のように、貧困や差別のために困っている

子どもたちの本。ほかにも、『障がいのある人たちとともに』や、ふかや必読

書でもある『さっちゃんのまほうのて』などを読むのも、人権を考えるきつ

けになると思います。ぜひ『3社会科学』の棚を見てみてください。

なかでも私が好きなのは、『わたしのとくべつな場所(文=パトリシア・マキ

サク)』という本です。舞台は1950年代のアメリカ南部。ある黒人の女の子

が図書館にいく、あらすじを言ってしまうとそれだけの話です。しかし人種

差別の残るこの時代、女の子が家から一歩外に出ると、「黒人専用」「白人

専用」と分けられているものがたくさんあります。ベンチ、バス、図書館も最初

は白人専用でした。しかし女の子は、いろいろな施設が人種で分けられている

ことを知らずにでかけ、トラブルを起こし、そのたびに悲しい思いをします。

女の子はかわいそうですが、がんばります。図書館が人種に関係なく使えるよ

うになって、本当によかった、そう思うだけで読み終わる人がほとんどだと思

います。

さて、本を開いて、作中のイラスト部分をよく見てください。文章では「黒人

専用」となっていますが、イラストに描いてあるのは、「COLORED SECTION(有

色人種の場所)」です。では、わたしたち黄色人種はどうでしょう。ちょっと

考えてみてください。疲れた時にベンチに座れなかったら、勉強したくても

図書館を使えないと言われたら、どうですか？ この本に書かれているのは、

まったくの他人事ではないことがわかってもらえますか？ 黒人の女の子になった

つもりでこの絵本を読んだら、どんな気持ちになりますか？

本を読むときは、「差別される側に立つて」、また、「自分と体の形や、育った

環境、ものごとの感じ方などが)違う人がたくさん世の中にいて、その人たち

もまた自分と同じく、みんな幸せになりたいと思っているのだ」ということを

考えながら読んでみてくださいね。

